
不協和音なコンツェルト

零月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不協和音なコンツェルト

【Nコード】

N85270

【作者名】

雫月

【あらすじ】

義務的にそして機械的に。下手くそなヴァイオリンを弾く少女^み満詠音^{よね}。そんな彼女と、彼女を取り巻く人たちとの不協和音な物語。

すこし冷めた性格の満詠音が繰り広げる、嵐に近いなんとも歪で不器用、でもとても甘い恋愛物語 - ラブストーリー -

prelude・プレリユード・（前書き）

この小説は悲しいくらいに文章力がない作品なので、予めご了承ください。尚、なにしろまるっきりの素人がかいておりますので、一応資料等参考にしていますが人間ですので知識に間違いがある場合が御座いましたら申し訳ありません。

後、少々の性的描写がある場合も、もしかしたら人によってあり得るのでそれもまた御了承願いたいです。とはいっても、一般の少女漫画レベルですので…それでも苦手な方は読まないことをオススメします。全然大丈夫という心やさしい方は読んで頂けると嬉しいです。

皆さんがこの小説を読んで、すこしでも楽しいひとときを過ごせますように。

いつもは時間に縛られ、人に縛られ…。今だけはそれを開放しましょう。別次元にトリップしちゃってください。いつだって人は自由に焦がれています。そう、今だけは心を解き放ち、心で私の物語や他の方の物語を読んで頂けると幸いです。

I pray for that I can spend time when reader is happy

prelude・プレリユード・

嗚呼、まただ　　。

失敗。何度目だろうか。

少女のヴァイオリンが、女の金切り声を出す。

その鼓膜を一瞬で突き抜ける衝撃のような音にも慣れてしまった。

少女はふうーっと何度目かわからない溜息を吐くと、ことんと音を立てて手に持っていたヴァイオリンをテーブルへ置いた。

振り返ると、窓から入ってきた風がふわりと彼女の髪を靡かせた。^{なび}
曆的には季節は立春。^{いちも}だがちつとも暖かくなる気配を見せず、春風は何処まで遠出してのやら見当もつかないほどだ。

少女は風の冷たさに思わず顔を顰めると、空気を入れ替えるために先ほど全開に開けっぴろげた窓を、ここぞとばかりに勢いよく閉めた。

若干やつあたりが含まれていたのは、言うまでもないだろう。

「…おいおい満詠音。^{みよね}窓、破壊する気か？」

突如後ろからからかうような声が聞こえた。

むっとしながら振り返ると満詠音の兄である啻音^{しおん}が意地悪く微笑みを浮かべていた。

「…本当に壊すわけないでしょう？ 阿呆らしい。」

冷たく突き放すように満詠音は返答した。

そしてそのまま啻音を押しつけて部屋を出る。馬鹿みたいに躍起になって練習をしていたせい、僅かながら手首の骨が軋むのを感じた。少々肩こりも気になる。

啻音は冷めた態度の妹に苦笑すると、満詠音が出しっぱなしにしたヴァイオリンを丁寧にしまつてあげた。

きつちりとケースにしまわれたヴァイオリンは、表面に塗られたワニスの影響がきらりと光沢をもっている。啻音はぱたんとケースに蓋をすると、満詠音がこのヴァイオリンを上手に弾いている様を想像してぷつとひとりでに吹き出した。そして当分先だろうな、と苦笑しながら呟いた後で静かに部屋を後にした。

無人になった部屋はとても寂しいもので、しんと静まりかえった室内はとても寒気がした。それはきつと、温度のせいだけではないだろう。

そこに家具にまぎれてぼつんと置かれたヴァイオリンケースもまた、何故だか寂しそうにみえた。それこそ、主人を待つ捨て猫のようにしょんぼりと。まあ、ヴァイオリンは生き物ではないが、物にはそれぞれ魂があるとは考えられている。人がそのことを忘れようと、そこに魂があることは変わらない。植物もまた、同じだ。植物は生きているが、誰もそうは認識しない。自力で動き回るものだけが生き物であると、誰が決めたのだろうか。植物もまた生きている。そして、物も同じだ。人によって生み出されたものたち。作った人にも、そういう想いがこめられているとしたら、ものに魂が宿ったとしてもなんら不思議はないはずだ。

季節は立春。始まりの季節。これはまだ、始まる前のほんの序章であり、前菜。

もしくはprelude^{プレリュード} 切り開く道は泡沫の幻想であり、惑う悪夢。

どこかできーっと再び下手くそな金切り声が聞こえた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8527o/>

不協和音なコンツェルト

2010年11月11日22時42分発行